

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 愛知県豊田市立藤岡南中学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒470-0431

愛知県豊田市西中山町蔵屋敷86-1

E-mail c-fujiokaminami@toyota.ed.jp

Website \_\_\_\_\_

幼児児童生徒数 男子 196名 女子 167名 合計 363名

幼児・児童・生徒の年齢 13歳～15歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

### (1) 活動の概要

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、校訓「ともに生きる」の理念のもと、総合的な学習の時間の目指す生徒像を『地域の方や仲間とかかわりあう中で、地域愛をはぐくみ、ともによりよく生きようとする生徒』としている。ESDの理念を学び、地域の教材の開発や大学と連携した国際理解教育、防災・減災教育、環境教育の実践を行っている。またESDと総合的な学習の時間を組み合わせたカリキュラムを作り、全教員で実践することなどを重点目標としている。ESDを推進し、追究活動を通してよき地球市民としての価値観・行動力の育成を図っている。

具体的な活動としては、①1年生で環境学習に係わる活動、②2年生で防災に係わる教育、③3年生で国際理解に係わる学習を行った。

### ①環境教育(1年生)

目指す生徒像を『田んぼから学ぶ日本人としてのアイデンティティ～複合的課題の解決のためにできること～』として活動を行った。

活動内容としては、地元の農作物であるさくら米を教材に、気候や食料問題など各教科との連携を図り、学ぶ目的意識を高めた。また、田んぼの調査や各工程での作業から、地域の方の協力をえて、つながりを尊重する態度の育成を目指し

た。また、さくら米を作ることを起点として、都市部と農村部のメリット、デメリットを考え、防災としての田んぼの機能や役割を知り、多面的、総合的に米作り考える機会とした。生徒がそれぞれ追究課題を設定し、インタビューや調べ学習を通して、課題解決と自分たちができることは何かを考えた。

### ②防災教育（2年生）

目指す生徒像を、『助けられる人から、助ける人になる～学校を主体とした地域連携型防災・減災教育の推進～』として活動を行った。

地域住民や大学生といった、異年齢と共に協働する機会を増やし、多面的、総合的に考える機会にした。具体的には地域住民や学生とともにDIG、HUGを実施した。自分が住む地域の危険箇所を学生とともに調査し、防災マップを改訂した。また、自分たちが調査したことを大切さや地域に向けて伝える場を設定し、防災意識の向上を図った。地域住民とともに行った防災フェスタでは、地域住民に住む中学生として災害時にどんなことをして貢献できるのかを考えながら参加することができた。

### ③国際理解教育（3年生）

目指す生徒像を『スポーツの力で世界とつながろう～スポーツを通して、国際理解を深める～』として活動を行った。

2019年に豊田市で、開催されるラグビーワールドカップ事業を起点とし、スポーツを通して国際理解を図る活動を行った。修学旅行先では、スポーツに関わる様々な事業所を訪問した。また、豊田市で開催されるラグビーワールドカップをPRするとともに、応援してもらうための手立てを考えることで他者と協力する態度を育成する活動を行った。

年間を通して、自分たちが『世界の誰かのために』活動を行っているという実感をもたせ。つながりを尊重する態度を育てることを大切にしたい。



①環境教育



②防災教育



②国際理解教育



## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

総合的な学習の時間を中心に各教科の年間指導計画、学級活動や生徒会活動の中に ESD に関わる学習や活動を位置づけている。特に総合的な学習の時間では、学年ごとに段階的な ESD を意識した目指す生徒の姿を作り、そのために必要な資質・能力を育てることができるように指導の積み重ねを行い、PDCA サイクルにもとづいて毎年改善を行っている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項 1-4 に対応

年度当初に昨年度の引き継ぎ事項を部会ごとに確認し、年間計画の作成を行っている。また、定期的に振り返りを行いながら年度末には、次年度への提案をまとめている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項 1-5 に対応

学校評価の項目の中に、ESD 教育に関する内容を取り入れている。また、学校アドバイザー会議でも話題にあげ、指導をあおいでいる。本校では、進んでボランティア活動に関わろうとする生徒が8割近くいるという成果がある一方、保護者への成果報告が十分でないこともあり、HPなどを活用して情宣活動を行っていきたいと考える。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

アサギマダラの保護を目的とした、フジバカマの栽培活動などを通して小中連携を深めている。また、地区の防災フェスタや交流館祭に参加する中で、これまで学んできた防災・減災の知識や技能、国際協調や環境保全のあり方について発表している。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

愛知工業大学と連携したDIG活動を通して、地区の防災MAPの作成を行っている。また、大学教授を招き、砂漠化に対する活動の講演をしていただいたり、ラグビーワールドカップに参加するトヨタ自動車の選手との交流の中で、スポーツを通じた国際交流について学習を深めたりした。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

昨年度は日程が合わず、参加を見送ったが、県内のユネスコスクールの成果発表会に参加し、活動報告をしたり、話を聞いたりして交流を深めている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

生徒と地域がつながり、生徒自身が積極的に地区の活動に参加することができている。また、保護者の生徒を支える活動も盛んで、地域をあげたつながりが生まれている。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

1 年生

ガイダンス「藤岡南地区の10年後を考える」

前期「藤岡南地区の福祉はどうなっているのだろうか（福祉教育）」  
※地域の高齢者の割合を知り、高齢者とともに生きる地区を考える

※社会福祉協議会と連携し、夏休みのボランティア体験活動につなげる

後期「災害では、どのようなことが起こるのだろうか（防災・減災教育Ⅰ）」

※地域の危険MAP作成のため、愛知工業大学と連携を図る

2 年生

前期「災害から藤岡南を守るために私たちにできること（防災・減災教育Ⅱ）」

※Ⅰ・Ⅱを合わせて、防災フェスタにて、発表

中期「藤岡南地域を活性化させていくために（キャリア教育）」

※ 藤岡南フェスティバルにて、発表

後期「おもてなしの心とは（国際理解教育Ⅰ）」

※修学旅行にて、発表

3 年生

前期「多様な特徴・文化をもった人々とともに生きる（国際理解教育Ⅱ）」

後期「地域のためにできること」

※これまでの学習を振り返って、学んだことの発表。

3年間のまとめⅠ

「これからの藤岡南地区について、語ろう（地域に関する教育）」